

環境省とＪリーグの連携協定

環境省と公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）は、夢があふれる地域社会の未来を共に創り、将来の子どもたちを笑顔にしていくという共通のゴール（GOAL）のもと、お互いが持つ知見や地域に根ざしたネットワークを共有しながら、地域の活力を最大限発揮できるよう、協働していくことで合意しました。

環境省とＪリーグは、今回締結した連携協定に基づき、以下のアクションを日本各地で展開していくとともに、今後継続的に協働する分野・取組の協議を進めていきます。

1. SDGs の観点での地域の活力を最大限発揮するため、地域社会を構成する行政、企業、金融機関、市民団体、大学・学校、サポーター、Ｊクラブなどのステークホルダーが一体となった取組を実現するための環境整備と情報発信・コミュニケーションの推進
2. 脱炭素社会（カーボンニュートラル）、循環経済（サーキュラーエコノミー）、分散型社会への移行を進めるための知見の共有や普及活動・行動変容を促す活動での協力（例えば、各種取組の効果や価値の見える化、地域での更なる活動推進、地域循環共生圏の構築、スタジアムやゲーム運営でのサステナビリティ向上、ＪリーグやＪクラブが持つ潜在的な魅力の発掘など）
3. ホームタウンの地域資源を最大限活かした地産地消の取組の推進
4. 環境省とＪリーグが持つ様々なチャンネルを共有する連携の強化
5. 共通のゴールを実現するための更なるアクションを展開するための継続的な協議

令和3年6月28日

環境大臣
小泉 進次郎

Ｊリーグ チェアマン
村井 満